

全数報告の感染症

- 1 類感染症: 報告なし
- 2 類感染症: コレラ 2 例(ともに疑似症)、細菌性赤痢 6 例(感染地域: インド 2 例、中国 1 例、エジプト 1 例、カンボジア 1 例、トルコ/エジプト 1 例)、腸チフス 1 例(感染地域: 国内(都道府県不明))
- 3 類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 69 例(うち有症者 45 例、HUS 1 例)[感染地域: すべて国内 国内の多い感染地: 広島県(6 例)、長崎県(6 例)、東京都(5 例)、大阪府(5 例)、熊本県(5 例) 年齢群: 10 歳未満(34 例)、10 代(8 例)、20 代(7 例)、30 代(9 例)、40 代(4 例)、50 代(3 例)、60 代(2 例)、70 歳以上(2 例) 血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(25 例)、O157 VT2(17 例)、O26 VT1(16 例)、O145 VT1(2 例)、O157 VT1(2 例)、O121 VT2(1 例)、O128 VT2(1 例)、その他/不明(5 例)]
- 4 類感染症: A 型肝炎 2 例(感染地域: 国内(都道府県不明)1 例、中国 1 例)、コクシジオイデス症 1 例(感染地域: 米国(アリゾナ州))、つつが虫病 15 例(感染地域: 新潟県 6 例、青森県 2 例、秋田県 2 例、福島県 2 例、長野県 2 例、山形県 1 例)、日本紅斑熱 2 例(感染地域: 和歌山県 1 例、愛媛県 1 例)、マラリア 2 例(三日熱 1 例_感染地域: パプアニューギニア熱帯熱 1 例_感染地域: タンザニア)、レジオネラ症 6 例(すべて肺炎型)[年齢群: 10 代 1 例、40 代 2 例、60 代 1 例、70 代 2 例 感染地域: 東京都 1 例、京都府 1 例、兵庫県 1 例、山口県 1 例、国内(都道府県不明)2 例]
- 5 類感染症: アメーバ赤痢 8 例(腸管 6 例、腸管外 2 例)[感染地域: 国内 7 例、インド 1 例 感染経路: 経口 1 例、性的接触(同性間)1 例、不明 6 例]、ウイルス性肝炎 1 例(B 型_感染経路: 不明)、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例(孤発性プリオン病(古典型 CJD))、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 例(60 代 1 例、70 代 1 例、血清群: ともに A 群、うち 1 例死亡)、後天性免疫不全症候群 25 例(無症候 15 例、AIDS 7 例、その他 3 例)[感染経路: 性的接触 22 例(異性間 5 例、同性間 15 例、不明 2 例)、静脈薬物使用 1 例、不明 2 例 感染地域: 国内 20 例、ベトナム 2 例、タイ 1 例、ブラジル 1 例、国外(国不明)1 例]、ジアルジア症 1 例(感染地域: インド)、梅毒 6 例(早期顕症 I 期 3 例、早期顕症 II 期 1 例、無症候 2 例)、破傷風 1 例(60 代)

定点把握の対象となる 5 類感染症 (週報対象のもの)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では沖縄県(16.8)、北海道(3.3)、岩手県(3.1)、秋田県(2.4)が多い。

小児科定点報告疾患: RS ウイルス感染症は 109 例の報告があり、報告数は微増した。年齢別では、1 歳以下の報告数が全体の約 68%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第 19 週以降、増加が続いており、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では福井県(3.5)、香川県(2.3)、鹿児島県(2.1)、岐阜県(2.1)、島根県(2.0)が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では山形県(4.5)、富山県(4.1)、新潟県(4.0)、北海道(3.5)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は 3 週連続で減少した。都道府県別では大分県(8.7)、福井県(8.5)、富山県(7.8)、山口県(7.4)が多い。水痘の定点当たり報告数は 2 週連続で減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してやや多い状態が続いている。都道府県別では新潟県(4.1)、長野県(4.1)、石川県(3.7)が多い。手足口病の定点当たり報告数は第 19 週以降、増加が続いている。都道府県別では岐阜県(4.2)、愛知県(3.1)、福井県(3.1)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では島根県(1.3)、鳥取県(1.2)、熊本県(1.2)、山形県(0.9)が多い。百日咳の定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では栃木県(0.11)、秋田県(0.09)が多い。風しんの定点当たり報告数は微増した。都道府県別では広島県(0.06)、京都府(0.04)、滋賀県(0.03)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第 10 週以降、増加が続いており、過去 5 年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では埼玉県(4.1)、愛媛県(3.7)、東京都(3.6)、山口県(3.3)、新潟県(3.3)が多い。麻しんの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では千葉県(0.08)、鳥取県(0.05)、茨城県(0.04)、広島県(0.04)が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は微減したが、過去 5 年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では鹿児島県(5.3)、静岡県(3.5)、長野県(3.4)、新潟県(3.2)が多い。

基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では大阪府(1.8)、群馬県(1.8)、青森県(1.3)、愛媛県(1.2)が多い。成人麻しんは 3 例の報告があり、岐阜県から 2 例、千葉県から 1 例であった。

	小児科定点											眼科定点		基幹定点									
	1)	RS ウイルス感染症	咽頭結膜熱	菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	3) 細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	成人麻しん	
(定点当たり)																							
愛媛県	.6	.1	1.9	2.6	5.0	2.2	.8	.3	.9			3.6	1.6		4.1			.3	1.2				
近畿	香川県	.9		2.3	1.0	3.9	1.8	2.8	.6	.7		1.5	1.7	.3	1.0								
	徳島県	1.0		1.0	.6	2.6	2.2	1.9	.2	.6		1.3	2.8		.3					.2			
	高知県			.7	1.1	3.0	2.2	.5	.1	.7		1.3	.8							.4			
全国	.8	.0	1.3	2.5	4.5	2.6	.7	.6	.7	.0	.0	1.9	.0	1.8	.0	1.2	.0	.1	.4	.0	.0		
北海道	3.3	.2	1.0	3.5	3.4	2.7	.2	.2	.3			.2	2.1		.9				.0	.8	.0		
東北	1.3	.0	.5	2.4	4.6	2.7	.2	.6	.6	.0		.9	1.5	.0	1.0			.0	.8	.0			
関東	.1	.0	1.4	2.7	4.1	2.6	.3	.7	.7	.0	.0	3.1	.0	1.5	.0	1.7	.0	.0	.5	.0	.0		
甲信越北陸	.0	.0	1.4	3.3	5.6	3.3	.8	.4	.6	.0		1.6	.0	2.5		1.0		.0	.5	.0			
東海	.2	.0	1.5	2.6	4.3	2.9	2.8	.7	.8	.0	.0	1.1	1.9	.0	.7			.1	.4		.1		
近畿	.3	.0	1.5	2.4	4.7	2.5	.6	.4	.5	.0	.0	1.8	.0	1.5	.0	.9	.0	.1	.4	.0			
中国四国	.6	.1	1.4	1.7	4.6	2.1	.8	.5	.7	.0	.0	2.0	.0	1.8	.0	1.4	.0	.1	.4	.0			
九州沖縄	2.5	.1	1.3	2.2	5.1	2.5	.4	.5	.9	.0		2.0	.0	2.1	.0	1.5	.0	.1	.3				

1) 高病原性鳥インフルエンザを除く。 2) 成人麻しんを除く。 3) 真菌性を含む。 4) オウム病は除く。(6月15日集計) 愛媛県基幹感染症情報センター

